

国連アジア極東犯罪防止研修所第151回国際研修に参加して

モロッコ王国 矯正局 採用・研修・能力促進部 職員研修所長
アブデゥラヒム・ラフティ

日本と海外からの研修参加者を代表して、この第151回国際研修に参加する機会を与えられたことに対して心からお礼を申し上げます。日本国政府、国際協力機構（JICA）、国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）、アジア刑政財団（ACPF）、そして、研修参加者に期待以上の素晴らしい経験を与えてくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。

この研修には、日本を含む14の異なる国々から、裁判官、警察官、矯正保護職員など異なる専門領域の24名が参加し、UNAFEI 教官、海外からの客員専門家、日本人の特別講師からの講義、参加者の個人発表、グループワーク、全体会議、施設見学など、多様な学習の機会を通じて、研修テーマである「実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇」について学び、議論し、分析を行いました。

この研修は、専門家の経験と主観的な評価のみに頼った矯正処遇を行う代わりに、科学的に妥当性が認められたツールを活用して実証的根拠に基づいた犯罪者の処遇を実践することに焦点を当てていました。リスク・ニーズアセスメントツールは、実証的根拠に基づいた実践の例です。これにより、私たちは、各犯罪者の静的リスクと動的リスクを見極め、動的リスクの改善を効果的で適切な処遇プログラムの目標とすることができるのです。結局のところ、実証的根拠に基づく犯罪者処遇の最終的な目的は、再犯を減らすことによって、より安全な刑務所、より安全な社会を実現することです。

私たちは、この研修が、明示された研修目標をほぼ達成したと思います。全ての参加者が、実証的根拠に基づく犯罪者処遇の実施又は向上について、それぞれの国の経験、将来の方向性、困難について話し合いました。私たちは、国際的な動向を知りましたし、各国の実践について最新の情報を交換するために構築した国際的なネットワークを通じて、国際的な動向を知り続けたいと思っています。

この点について、日本人の講師、保護司、海外からの客員専門家の全てに心から感謝いたします。その講義や発表はとても有益で興味深いものでした。

また、私は、職員、専門家、実務家から情報や説明を得ることができた見学訪問を高く評価したいと思います。特に、法務事務次官とお会いし、その招待で素晴らしいパーティーに出席し、そこに各国の大使館関係者も招待されていたことは、私たちにとって非常に

光栄なことでした。

私は、ACPF の価値ある支援にも心から感謝を申し上げたいと思います。UNAFEI に到着した夜に最初のディナーパーティーを開催し、もてなして下さったことを私たちは決して忘れません。大相撲をライブで観戦した後、ディナーパーティーに出席したことも、非常に嬉しい体験でした。そして、ACPF の招待行事で最も忘れられないのが、横浜港ディナークルーズです。これは生涯に二度とない経験で、夢を見ているようでした。私たちは、ACPF の惜しみない温かいおもてなしと継続的な支援に本当に深く感謝しています。

「第一印象は続く。」と言われますが、この点で、JICA の職員の暖かい歓待、几帳面さ、親切、そして継続的な気遣いに深く感謝申し上げます。JICA は私たちが来日した際の最初の我が家であり、オリエンテーションや日本の文化、社会、経済、政治などに関する講義を通じて、日本を紹介してくれました。JICA の皆さん、ありがとうございました。私たちは、来日から離日までの間に皆さんがしてくださったことを忘れません。そして、JICA による素晴らしい努力について語るとき、星野さんに言及しないわけにはいきません。彼女は、JICA の研修監理員として、研修中はいつも一緒にいてくれました。私たちは、彼女の忍耐、寛容、そして、とりわけ温かい気遣いをとてもありがたく思っています。

来日する前は、私たち海外研修参加者は UNAFEI について聞いたことがありませんでしたが、1 か月以上の研修を通じて、UNAFEI は身近な我が家となりました。見学訪問のために出かけた後はいつでも、住み慣れた部屋に戻ることに心地よさと素晴らしさを感じました。この機会に、私は、アジ研の全ての職員に対し、心からの感謝を申し上げたいと思います。UNAFEI の職員は、見学訪問の際には、私たちの無事を願って、いつも玄関先で両手を振って送り出してくれました。そして、帰ってきたときにはいつでも、どんな時間であっても、どんな天気であっても、再び両手を振って私たちを温かく迎えてくれました。このようなことは、本当に熱心で献身的で休むことのない職員でなければできないでしょう。

この点において、プログラムの全期間を通じて思いやりのあるリーダーであり、静かな手本であった UNAFEI の所長である佐久間さんに特に感謝を申し上げます。

佐久間さん、あなたが UNAFEI に素晴らしい価値あるチームを持っていることを私たちが皆うらやましいと思っていることは、ここで言及するに値します。それは、覚悟、根気強さ、自己犠牲、準備を本当に兼ね備えたチームです。私たちは、この機会に、清掃スタッフに始まり、食堂スタッフ、事務の方々、語学顧問、そして、すべての博識な教官、すなわち、親切な御支援をいただいた次長の宇川さん、疲れを知らない角田さん、田代さん、

吉田さん、吉村さん、多田さん、和泉さん、谷中さん、岩下さんに至るまで、このチームの全てのメンバーに心から感謝を申し上げたいと思います。

私たちの母なるアジ研の皆様、ありがとうございました。家族や友人と会えなかった研修期間中、あなた方は本当に私たちの家族や友人でした。

日本の環境への適応を促進してくれた日本人参加者にも大変感謝しています。彼らによる自発的な交流や休日や家族を犠牲にした週末の行事のお陰で、私たちの日常生活は刺激的で楽しいものになりました。日本の伝統や生活様式について十分に教えていただいたことについてもお礼を申し上げます。彼らは、外出先で買い物をしたり食事を選んだりしているときでもそばにいてくれ、質問したときには情報や答えをくれました。私たち海外からの参加者にとっては、彼らと同じ研修を共有できたことを非常にうれしく、とても光栄に感じています。

また、UNAFEI が、日本語教室を開催して日本語で自己紹介ができるようにくださったこと、ソロプチミストの支援により、日本の伝統的なお茶会を体験し、日本の伝統的な歌を練習する機会を与えてくださったこと、そして、とりわけ、ラウンジ B で素敵なカラオケを体験させてくださったことに感謝を申し上げます。

最後に、研修参加者を代表して、私は、この研修が終了した後、どのような障害や困難があろうとも、変化を成し遂げ、要求が満たされるまで、努力し、やり遂げ、障害を取り除くことをお約束します。というのは、私たちが受けたこの素晴らしい学びの体験によって、私たちは、非常に力を与えられ、知識を身に付けたと本当に感じているからです。

どのような感謝の言葉や表現であっても、本当に十分ではないし、伝えたい素晴らしい気持ちを決して表すことはできないでしょう。

この素晴らしい国と友好的な人たち、そして、私たち全てに、全能の神の御加護がありますように。

ありがとうございました。